

令和6年度
市民意識調査（アンケート）
結果報告書

令和6年11月
鹿屋市

目 次

	ページ
1 調査の概要	
（1）目的	1
（2）抽出方法	1
（3）対象者数	1
（4）調査期間	1
（5）回答者数	1
（6）アンケートの信頼性	1
2 回答者の状況	
（1）性別	2
（2）年齢	2
（3）家族構成	2
（4）職業	2
（5）住まい	2
（6）居住年数	2
3 鹿屋市の住みやすさについて	
（1）住みやすさについて	3
（2）住みやすい理由	4～5
（3）鹿屋市が今後 10 年後に向けて「住みやすいまち」になるには	6～7
4 鹿屋市が実施している施策の認知度等について	
（1）基本施策の認知度と、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合	8
（2）各基本施策の統計	9～16
5 総合計画に記載されている KPI について	
（1）人権意識について	17
（2）男女平等意識について	18～19
（3）子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合	20
（4）スポーツ実施率	21
（5）いまの生活に幸福を感じている市民の割合	22
6 その他	
（1）鹿屋市が重点をおくべきデジタル施策について	22
7 町内会の加入・未加入の理由等について	
（1）町内会の加入状況	23
（2）町内会に加入している理由	23
（3）町内会に加入していない理由	26
（4）市民が町内会が担うべきと思う活動	28

1 調査の概要

(1) 目的

統計資料等から把握できない内容を聞き取るとともに、第2次鹿屋市総合計画の各施策とその施策に基づき進めている取組が、市民にどの程度認知され、期待されているのかを分析し、その結果を今後の行政運営に生かすもの。

また、第2次鹿屋市総合計画に記載されているKPIの検証を行うもの。

(2) 抽出方法

16歳以上の市民の中から無作為に抽出

(3) 対象者数

2,500人

(4) 調査期間

令和6年8月27日～9月30日

(5) 回答者数

662人（回答率 26.5%）

(6) アンケートの信頼性

本来、アンケート調査を行う場合、その回答誤差をなくすためには、全母集団（全被験者）を対象とすることが理想であるが、母集団（被験者）の数が膨大な場合、効率的ではないため、適当なサンプル数（人数）を選んで行う。

その場合、アンケート回答者数と回答誤差の関係は、当然、回答者数が少ないと誤差が大きく、回答者数が多いと誤差は小さくなるが、その関係は一定でなく、ある一定の数を超えると、回答者数を大幅に増やしても回答誤差はほとんど変わらない。

統計学的には、この「一定の数」は標本誤差が3～5%以内であればよいとされている。標本誤差3～5%となるためには、385人から1,067人の回答者数があればよく、今回のアンケートの回答者数は662人であるので、本調査は信頼性が確保されていると言える。

$n = 1.96^2 \times \frac{p(1-p)}{d^2}$	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.05^2} = \underline{384.2}$
n : 回答者数	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.03^2} = \underline{1067.1}$
p : 回答比率（50%で精度最大）	
d : 標本誤差	※ 662人の時の標本誤差 = 3.81%

2 回答者の状況

(1) 性別

	回答者数(人)	割合(%)
男性	276	42.1
女性	379	57.8

(2) 年齢

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
回答者数(人)	19	38	68	95	98	152	138	53
割合(%)	2.9	5.7	10.3	14.4	14.8	23.0	20.9	8.0

(3) 家族構成

	1人世帯	1世代世帯 (夫婦)	2世代世帯 (親・子)	3世代世帯 (親・子・孫)	その他の世帯
回答者数(人)	116	268	246	14	17
割合(%)	17.5	40.5	37.2	2.1	2.6

(4) 職業

職業	回答者数(人)	割合(%)
農林水産業	25	3.8
自営業(商工業、サービス業、会社役員)	52	7.9
会社員(正社員、公務員など)	207	31.3
非正規雇用者(アルバイト・パートタイム等を含む)	130	19.7
家事専業(主婦、主夫など)	62	9.4
学生	16	2.4
無職	149	22.5
その他	20	3.0

(5) 住まい

地区	回答者数(人)	割合(%)	地区	回答者数(人)	割合(%)
鹿屋・市街地中心地区	53	8.0	鹿屋・大始良地区	33	5.0
鹿屋・寿地区	171	25.8	鹿屋・高須浜田地区	7	1.1
鹿屋・西原地区	134	20.2	鹿屋・古江花岡地区	25	3.8
鹿屋・高隈地区	7	1.1	輝北地区	25	3.8
鹿屋・東原祓川地区	23	3.5	串良地区	77	11.6
鹿屋・田崎地区	68	10.3	吾平地区	37	5.6

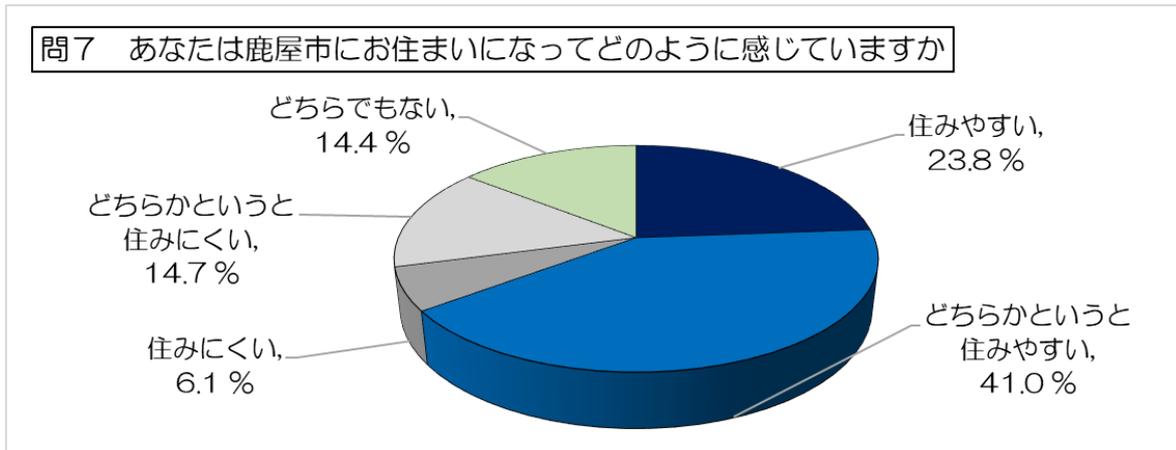
(6) 居住年数

	5年未満	5年～9年	10年～19年	20年以上
回答者数(人)	45	46	84	478
割合(%)	6.9	7.0	12.9	73.2

※各設問の回答者数の合計は未回答もあるため、回答者総数と一致しない。

3 鹿屋市の住みやすさについて

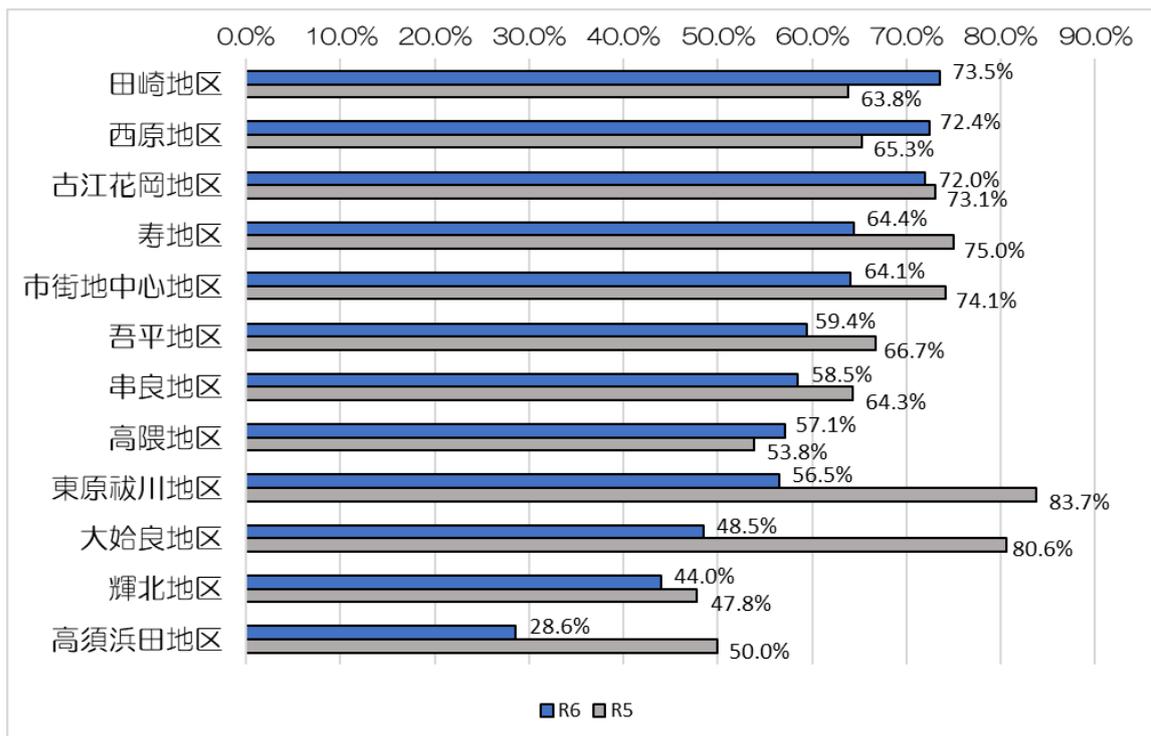
(1) 住みやすさについて



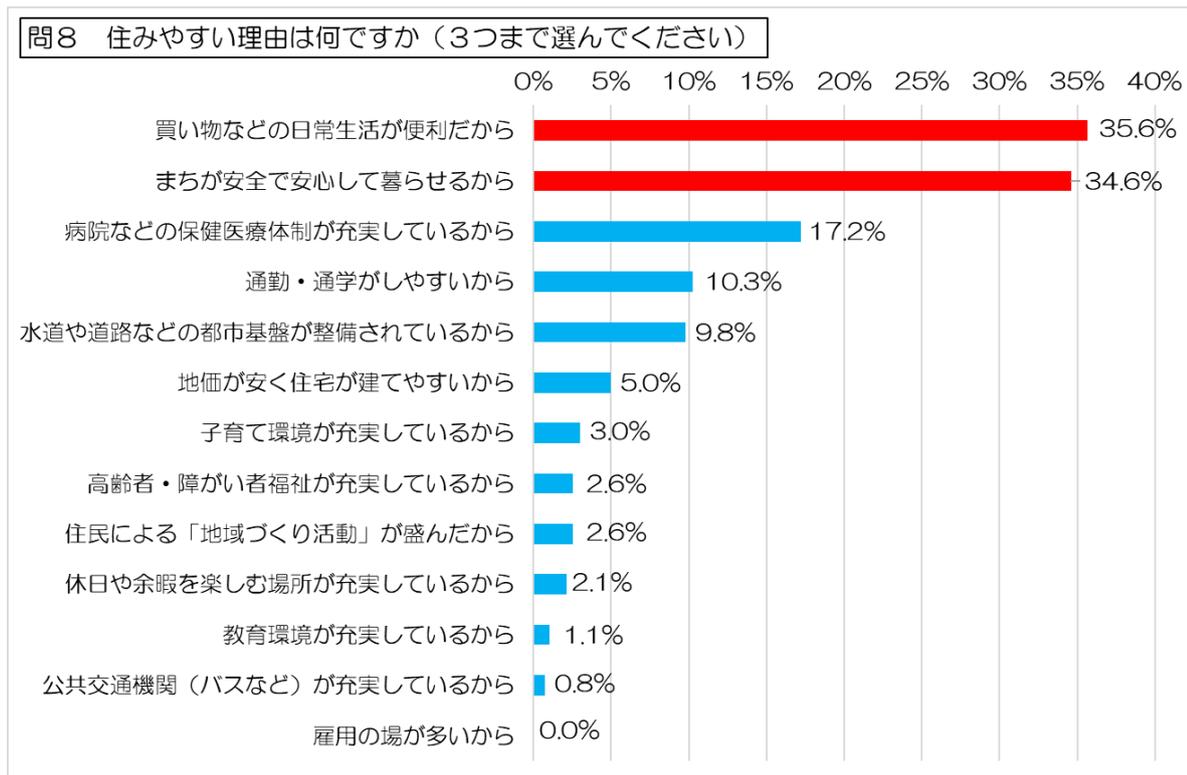
	R6		R5
	回答者数 (人)	割合 (%)	割合 (%)
住みやすい	155	23.8	28.7
どちらかというに住みやすい	267	41.0	41.4
住みにくい	40	6.1	6.9
どちらかというに住みにくい	96	14.7	9.5
どちらでもない	94	14.4	13.3

◆ 「住みやすい」・「どちらかというに住みやすい」と回答した人の割合が64.8%であった。「住みにくい」・「どちらかというに住みにくい」と回答した人の割合は20.8%であった。

【居住地別の住みやすさ】



(2) 住みやすい理由



- ◆ 「買い物などの日常生活が便利だから」・「まちが安全で安心して暮らせるから」と回答した人の割合が他と比べて突出している。

●前回 R5との比較

順位	項目	R6		R5	
		割合	順位 前年比較	割合	順位
1	買い物などの日常生活が便利だから	35.6%	↑	39.1%	2
2	まちが安全で安心して暮らせるから	34.6%	↓	40.3%	1
3	病院などの保健医療体制が充実しているから	17.2%	→	19.0%	3
4	通勤・通学がしやすいから	10.3%	→	12.0%	4
5	水道や道路などの都市基盤が整備されているから	9.8%	→	9.6%	5
6	地価が安く住宅が建てやすいから	5.0%	→	6.9%	6
7	子育て環境が充実しているから	3.0%	↑	2.7%	9
8	高齢者・障がい者福祉が充実しているから	2.6%	↓	4.7%	7
9	住民による「地域づくり活動」が盛んだから	2.6%	↓	3.6%	8
10	休日や余暇を楽しむ場所が充実しているから	2.1%	→	2.2%	10
11	教育環境が充実しているから	1.1%	↑	0.9%	12
12	公共交通機関（バスなど）が充実しているから	0.8%	↑	0.8%	13
13	雇用の場が多いから	0.0%	↓	1.2%	11

- ◆ 「買い物などの日常生活が便利だから」、「子育て環境が充実しているから」などがランクアップし、「まちが安全で安心して暮らせるから」「高齢者・障がい者福祉が充実しているから」などがランクダウンした。

※居住地別の「住みやすい理由」（上位3つ）

中心市街地

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・通勤・通学がしやすいから

寿地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

西原地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

高隈地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから

東原・祓川地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

田崎地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・通勤・通学がしやすいから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

大始良地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから

高須・浜田地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから
- ・住民による「地域づくり活動」が盛んだから

古江・花岡地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・高齢者・障がい者福祉が充実しているから
- ・買い物などの日常生活が便利だから

輝北地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから
- ・買い物などの日常生活が便利だから

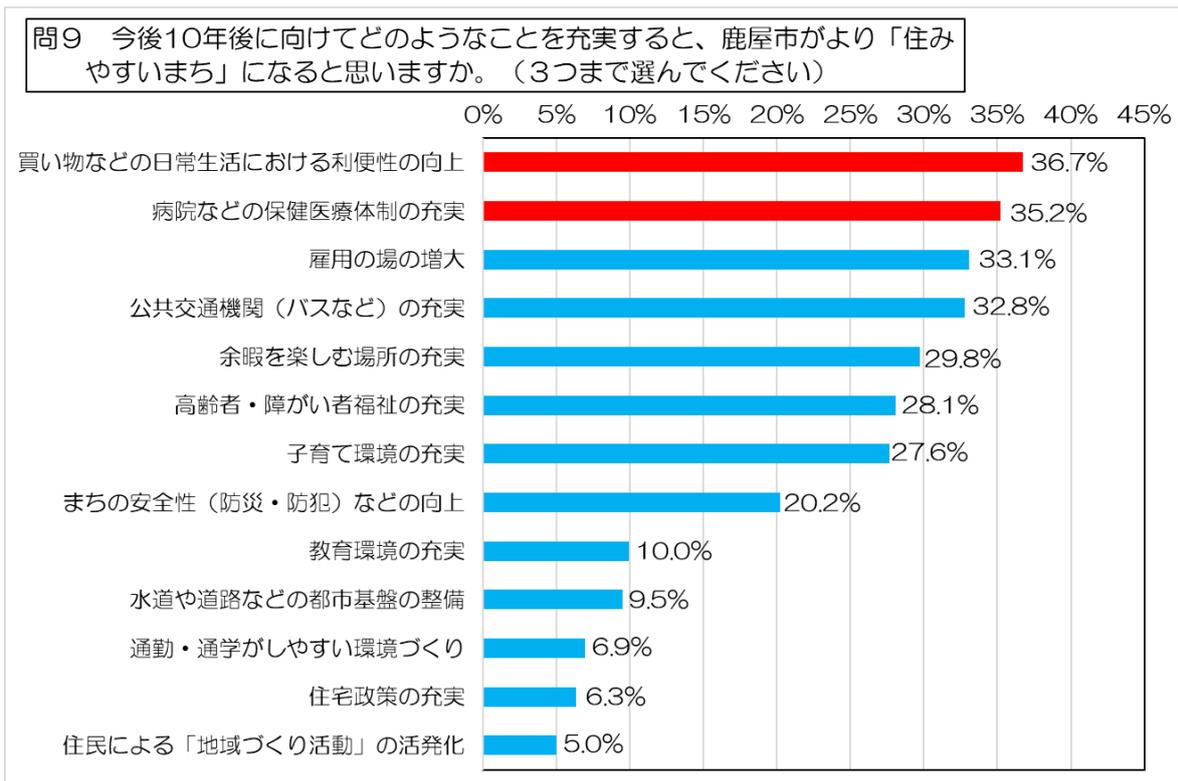
串良地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから

吾平地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから

(3) 鹿屋市が今後10年に向けて「住みやすいまち」になるには



●前回 R5 との比較

順位	項目	R6		R5	
		割合	順位 前年比較	割合	順位
1	買い物などの日常生活における利便性の向上	36.7%	↗	32.8%	2
2	病院などの保健医療体制の充実	35.2%	↗	23.3%	5
3	雇用の場の増大	33.1%	→	27.0%	3
4	公共交通機関（バスなど）の充実	32.8%	→	26.1%	4
5	余暇を楽しむ場所の充実	29.8%	↘	35.4%	1
6	高齢者・障がい者福祉の充実	28.1%	→	21.4%	6
7	子育て環境の充実	27.6%	→	20.6%	7
8	まちの安全性（防災・防犯）などの向上	20.2%	→	17.0%	8
9	教育環境の充実	10.0%	↗	6.7%	11
10	水道や道路などの都市基盤の整備	9.5%	↘	8.9%	9
11	通勤・通学がしやすい環境づくり	6.9%	↘	6.9%	10
12	住宅政策の充実	6.3%	↗	4.2%	13
13	住民による「地域づくり活動」の活発化	5.0%	↘	4.9%	12

※ R6は設問を「今後、住みやすいまちになるために必要なこと」から、「今後10年に向けて住みやすいまちになるために必要なこと」に変更。

◆ 今後10年度に向けて住みやすいまちになるために必要なことは、「買い物などの日常生活における利便性の向上」、次いで「病院などの保健医療体制の充実」となった。また、「病院などの保健医療体制の充実」などが順位を上げた一方で、「余暇を楽しむ場所の充実」などは順位を下げている。

※居住地別の「より住みやすいまち」になるために必要なこと（上位3つ）

中心市街地

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

寿地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・子育て環境の充実

西原地区

- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・雇用の場の増大

高隈地区

- ・まちの安全性(防災・防犯)などの向上
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実

東原・祓川地区

- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・雇用の場の増大

田崎地区

- ・雇用の場の増大
- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・子育て環境の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上

大始良地区

- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・子育て環境の充実

高須・浜田地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・高齢者・障がい者福祉の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・余暇を楽しむ場所の充実

古江・花岡地区

- ・高齢者・障がい者福祉の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

輝北地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・雇用の場の増大

串良地区

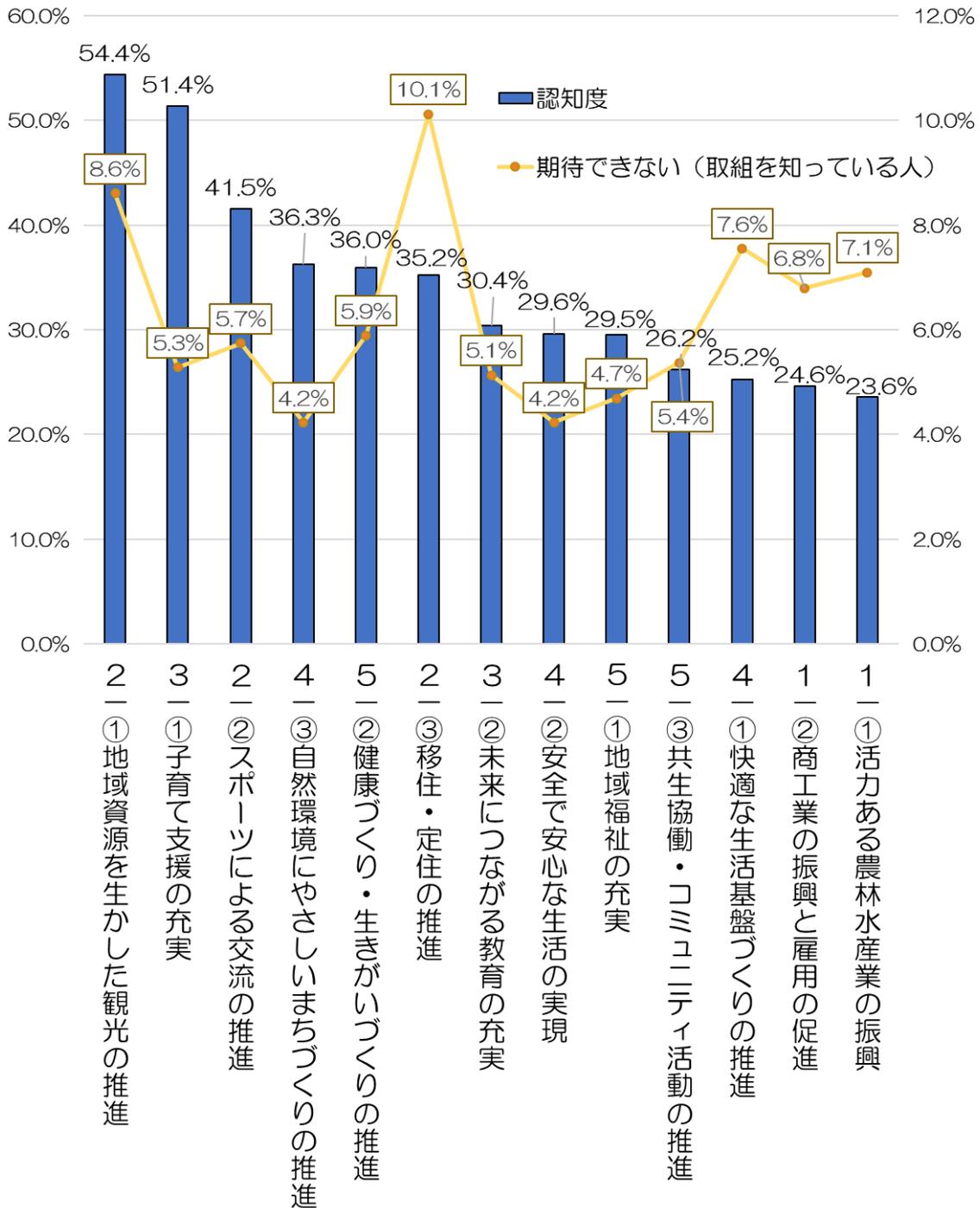
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・雇用の場の増大

吾平地区

- ・高齢者・障がい者福祉の充実
- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・雇用の場の増大

4 鹿屋市が実施している施策の認知度等について

(1) 基本施策の認知度と、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合



◆ 「(2-①)地域資源を生かした観光の推進」の認知度が54.4%で最も高く、次いで「(3-①)子育て支援の充実」、「(2-②)スポーツによる交流の推進」となっている。

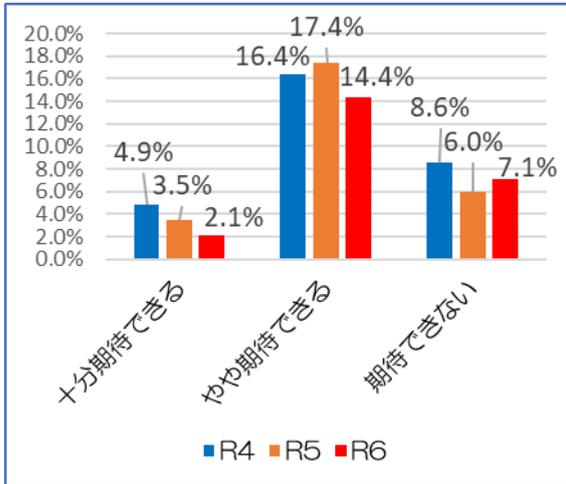
また「取組を知っている」人の中で「期待できない」と回答した割合が高かったのは、「(2-③)移住・定住の推進」、「(2-①)地域資源を生かした観光の推進」、「(4-①)快適な生活基盤づくりの推進」であった。

(2) 各基本施策の統計 (※年度別)

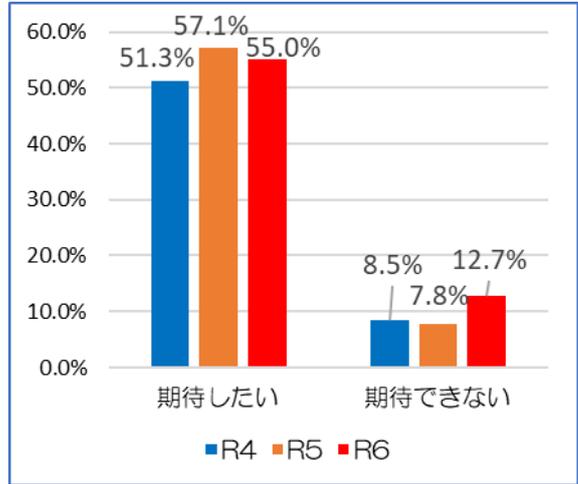
<基本目標1 やってみたい仕事ができるまち>

① 活力ある農林水産業の振興

取組を知っている人

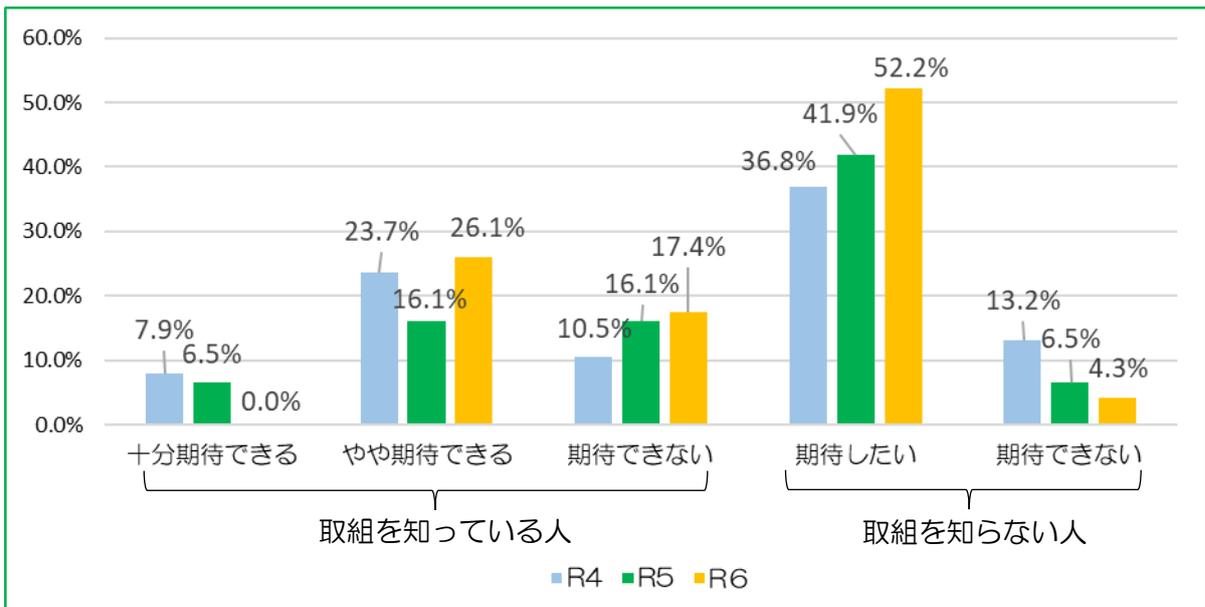


取組をしらない人



◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が16.5%と前年より4.4ポイント減少している。「取組を知らない人」についても、「期待したい」と回答した割合が2.1ポイント減少している。

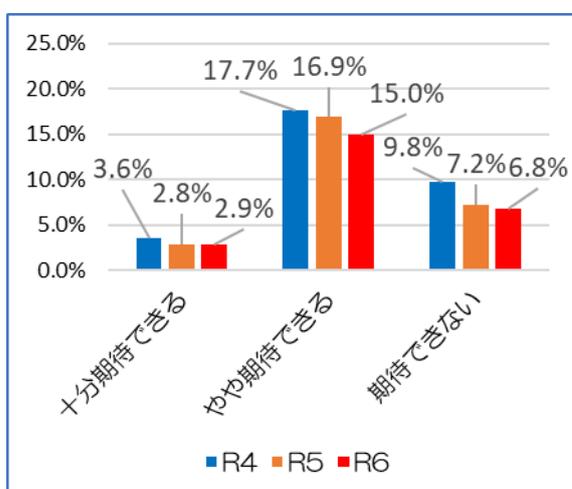
農林水産事業者の統計



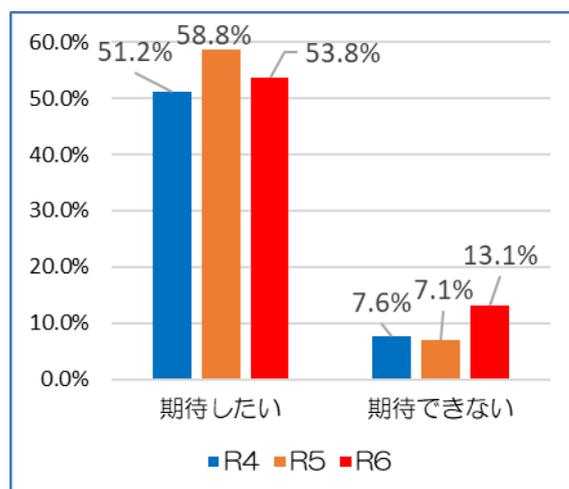
◆ 農林水産事業者の「取組を知っている人」の期待度を見ると、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した人の割合は3.5ポイント増加し、「期待できない」と回答した人の割合は1.3ポイント増加している。

② 商工業の振興と雇用の促進

取組を知っている人

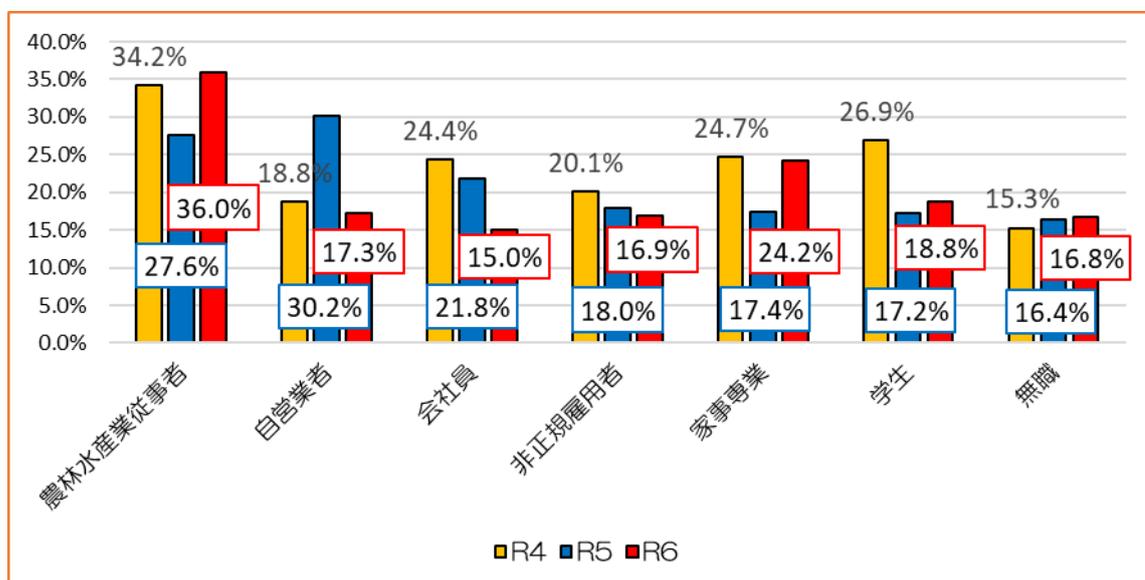


取組をしらない人



- ◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が17.9%と前年より1.8ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が5.0ポイント減少している。

職業別の期待度（取組を知っている人）



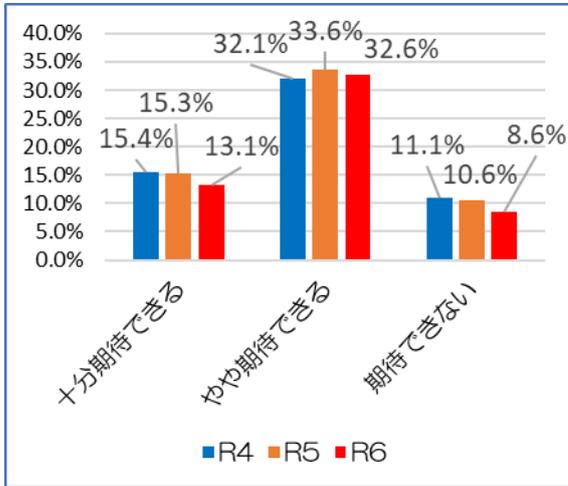
※ 期待度は、取組を知っていると回答した人のうち、「十分期待できる」、「やや期待できる」と回答した人の割合

- ◆ 職業別の期待度をみると「農林水産従事者」が最も高く、次いで「家事専業」となっている。
前年度比較では、「農林水産従事者」が8.4ポイント増加し、「自営業者」は12.9ポイント減少している。

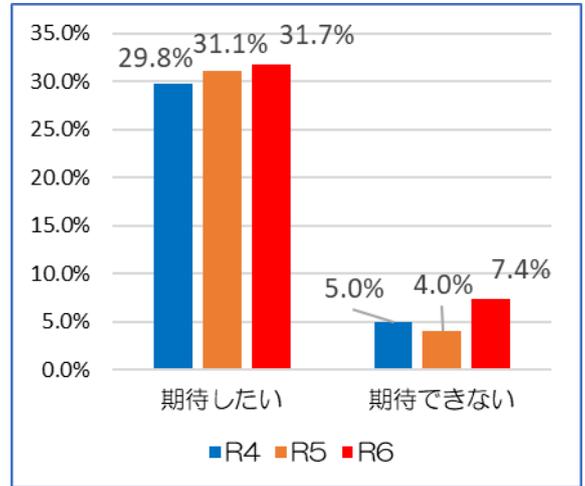
<基本目標2 いつでも訪れやすいまち>

① 地域資源を生かした観光の推進

取組を知っている人



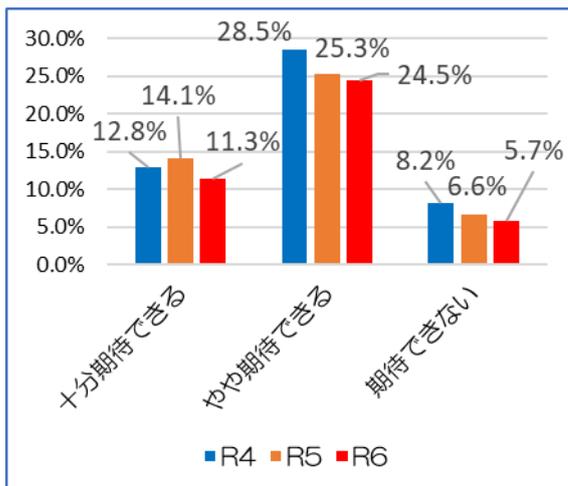
取組をしらない人



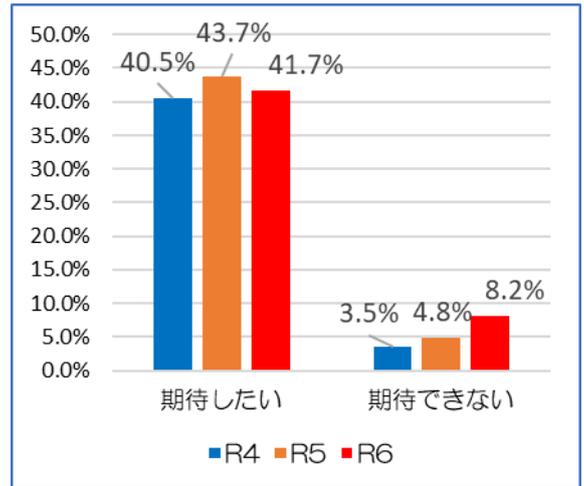
◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が45.7%と前年より3.2ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が0.6ポイント増加している。

② スポーツによる交流の推進

取組を知っている人



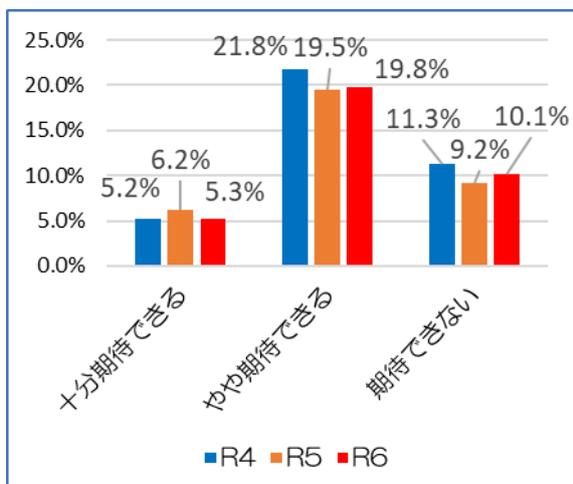
取組をしらない人



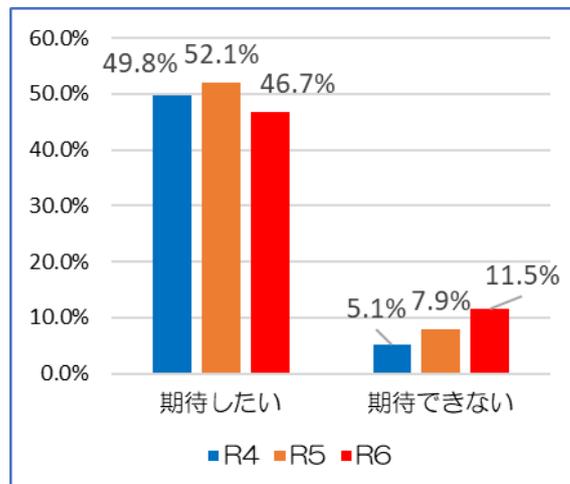
◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が35.8%と前年より3.6ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が2.0ポイント減少している。

③ 移住・定住の推進

取組を知っている人



取組をしらない人

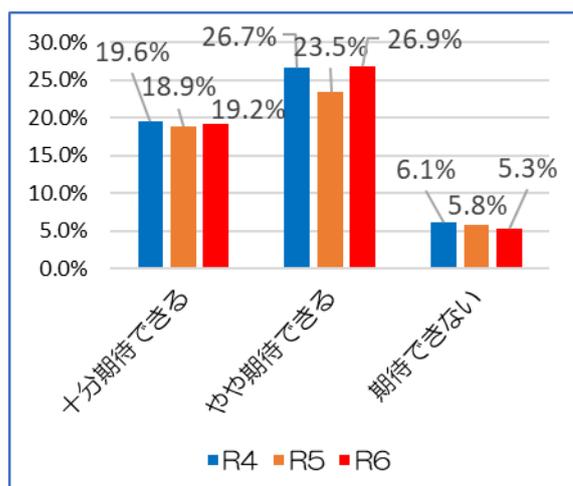


- ◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が25.1%と前年より0.6ポイント減少している。「取組を知らない人」についても、「期待したい」と回答した割合が5.4ポイント減少している。

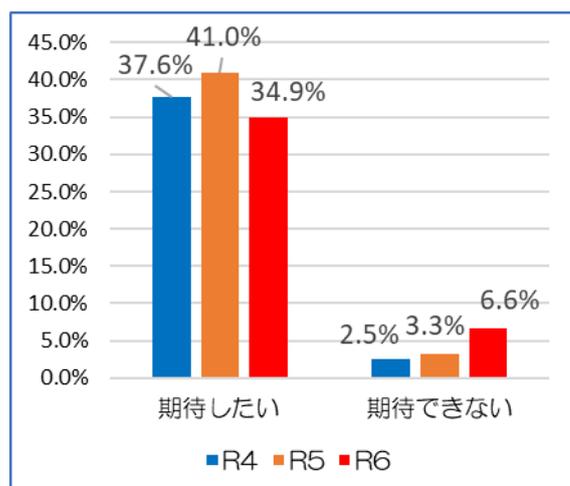
<基本目標3 子育てしやすいまち>

① 子育て支援の充実

取組を知っている人

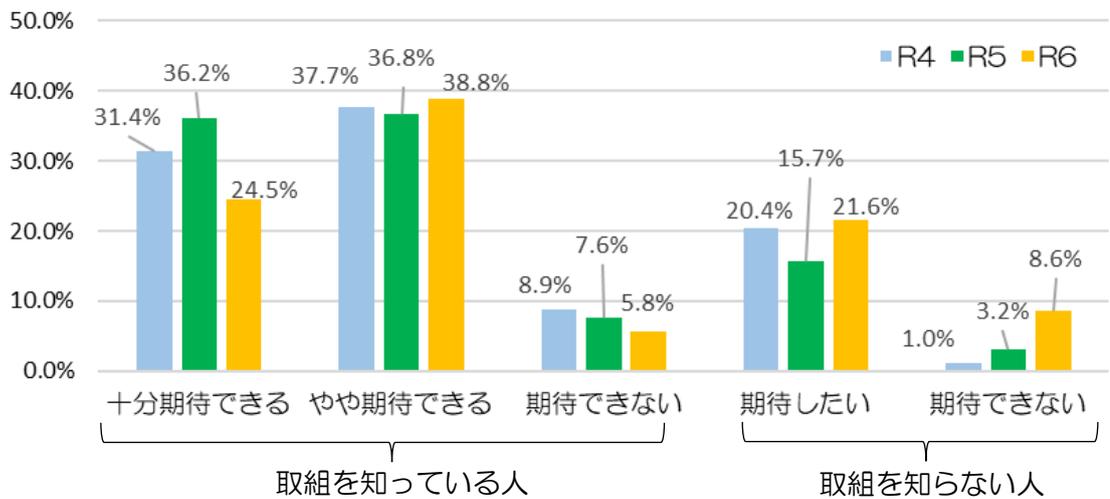


取組をしらない人



- ◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が46.1%と前年より3.7ポイント増加している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が6.1ポイント減少している。

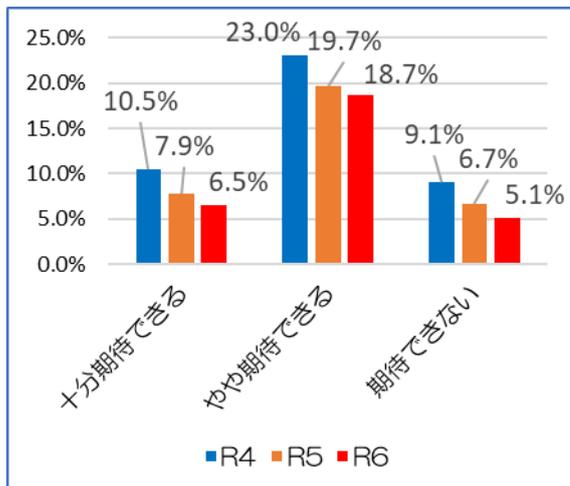
子育て世代（20～40歳代の2世代世帯・3世代世帯）の統計



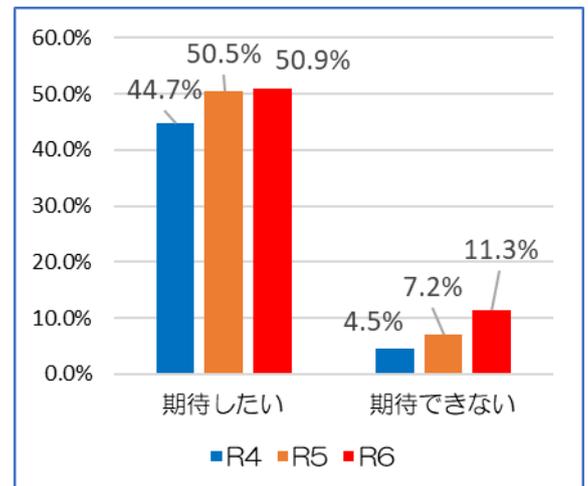
◆ 子育て世代に絞った回答では、取組を知っている人の中で「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合の割合は63.3ポイントで前年と比較すると、9.7ポイント減少している。取組を知らない人の中で「期待したい」と回答した割合は5.9ポイント増加している。

② 未来につながる教育の充実

取組を知っている人



取組をしらない人

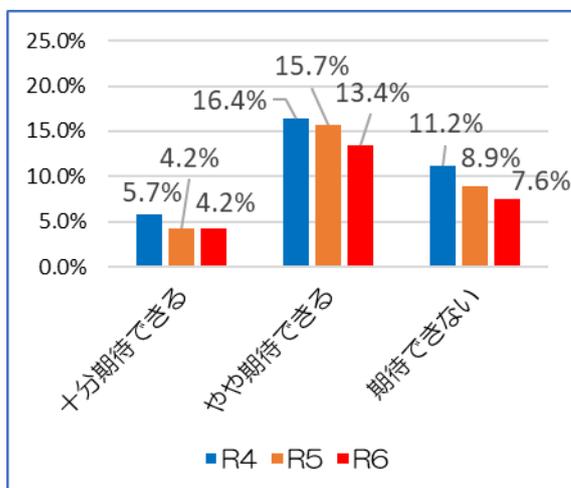


◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が25.2%と前年より2.4ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が0.4ポイント増加している。

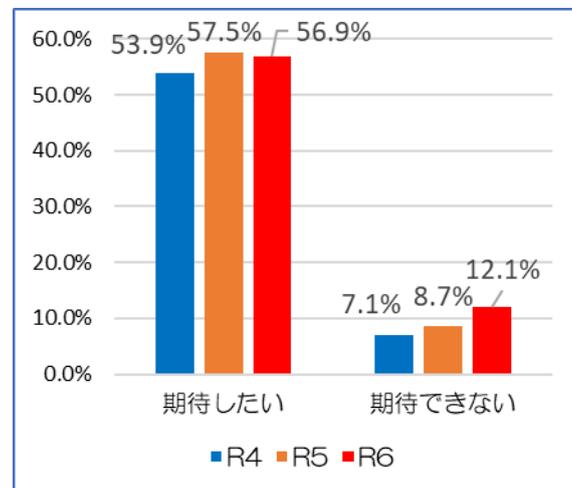
<基本目標4 未来につながる住みよいまち>

① 快適な生活基盤づくりの推進

取組を知っている人



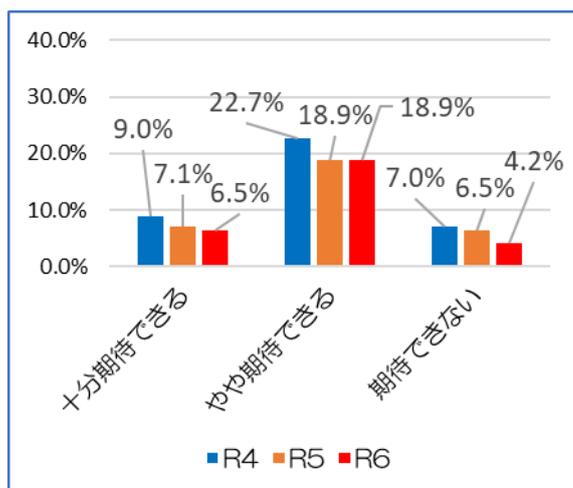
取組をしらない人



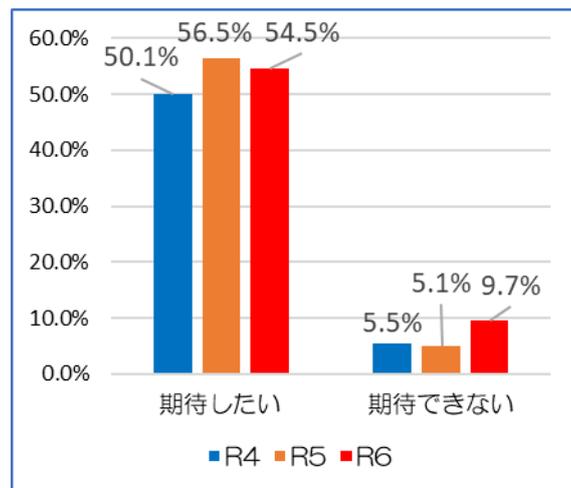
◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が17.6%と前年より2.3ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が0.6ポイント減少している。

② 安全で安心な生活の実現

取組を知っている人



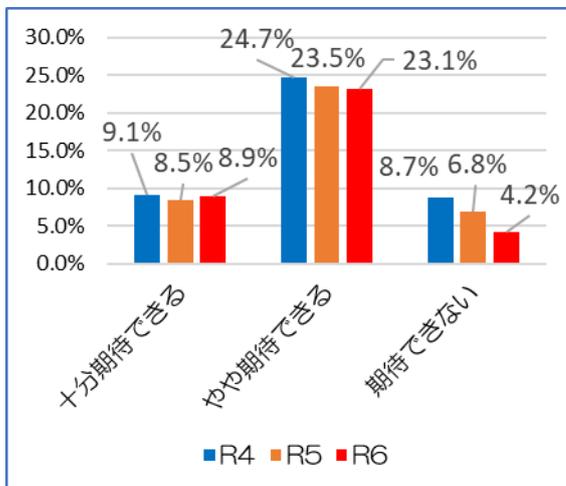
取組をしらない人



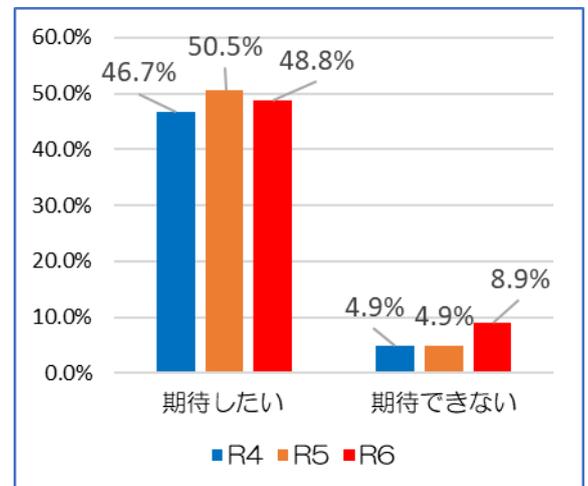
◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が25.4%と前年より0.6ポイント減少している。「取組を知らない人」についても、「期待したい」と回答した割合が2.0ポイント減少している。

③ 自然環境にやさしいまちづくりの推進

取組を知っている人



取組をしらない人

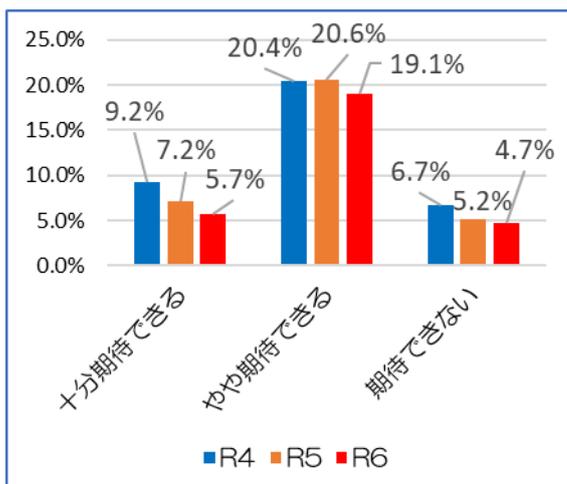


- ◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が32.0%と前年と増減なし。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が1.7ポイント減少している。

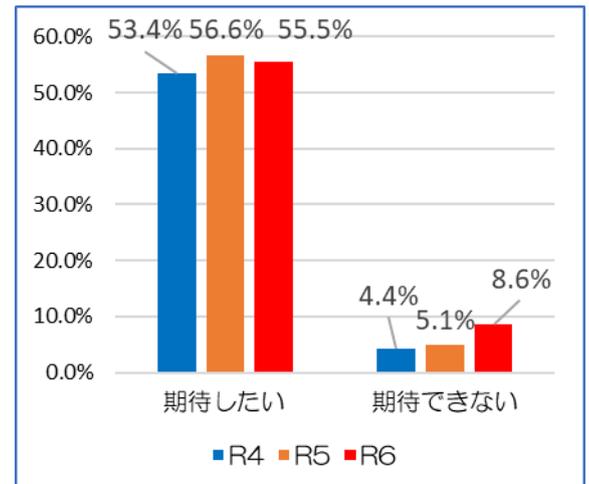
<基本目標5 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち>

① 地域福祉の充実

取組を知っている人



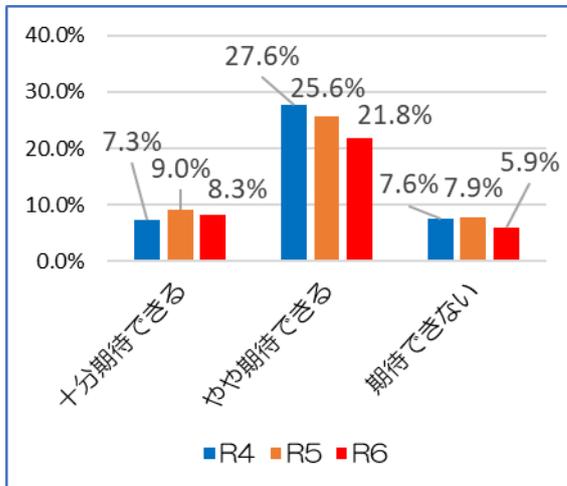
取組をしらない人



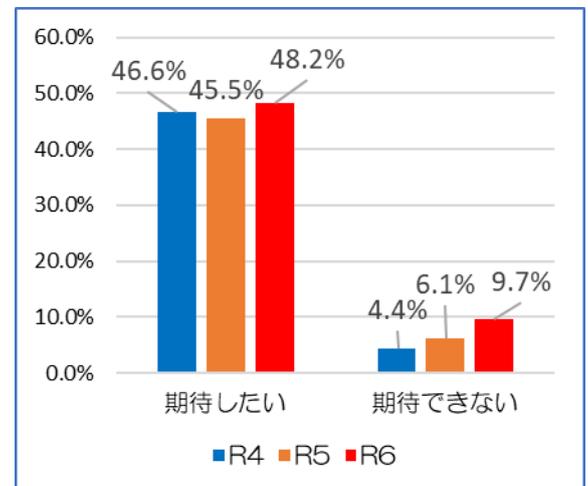
- ◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が24.8%と前年より3.0ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が1.1ポイント減少している。

② 健康づくり・生きがいづくりの推進

取組を知っている人



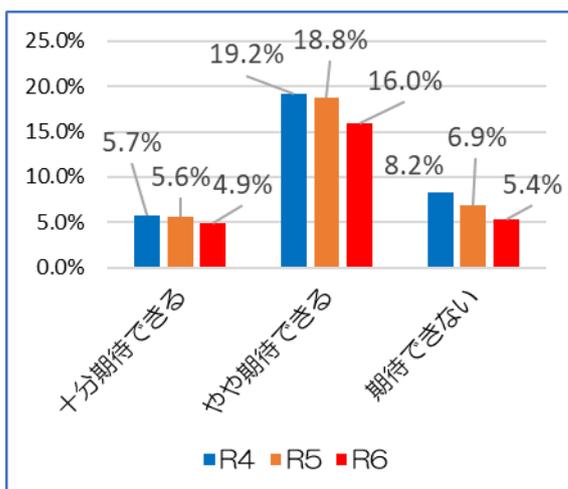
取組をしらない人



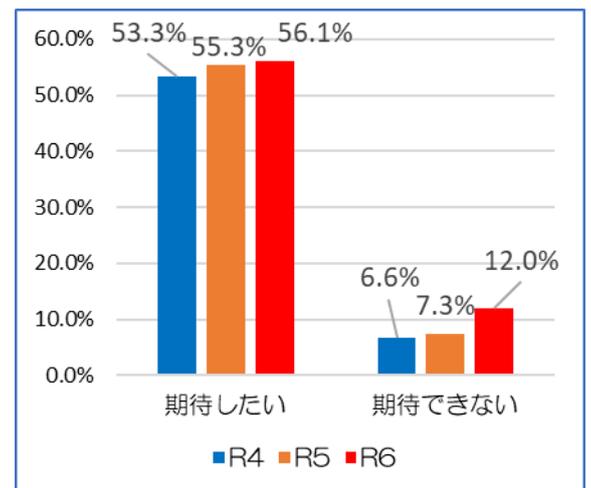
◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が30.1%と前年より4.5ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が2.7ポイント増加している。

③ 共生協働・コミュニティ活動の推進

取組を知っている人



取組をしらない人



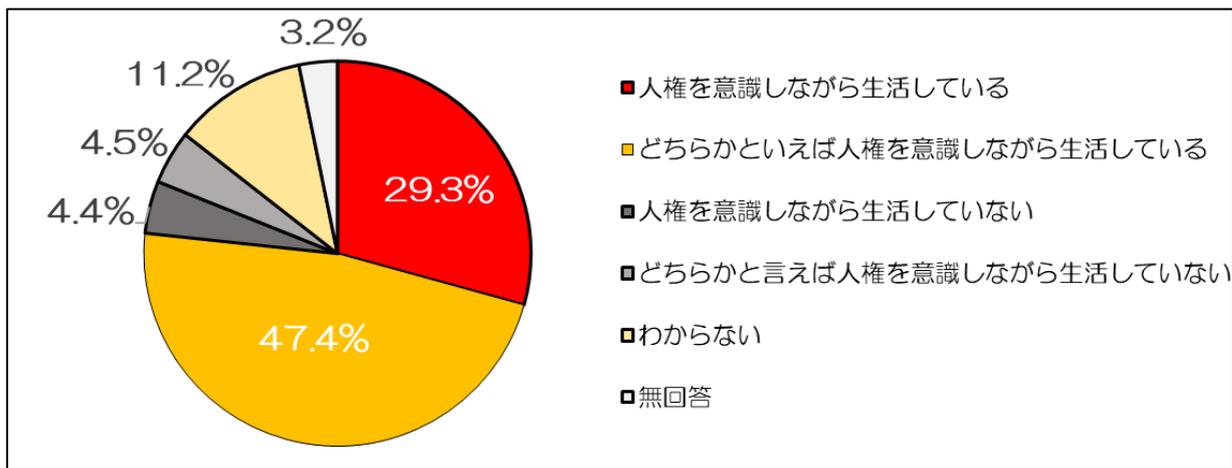
◆ 「取組を知っている人」については、「十分期待できる」・「やや期待できる」と回答した割合が20.9%と前年より3.5ポイント減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が0.8ポイント増加している。

※基本目標別の自由意見については別冊参照

5 総合計画に記載されているKPIについて

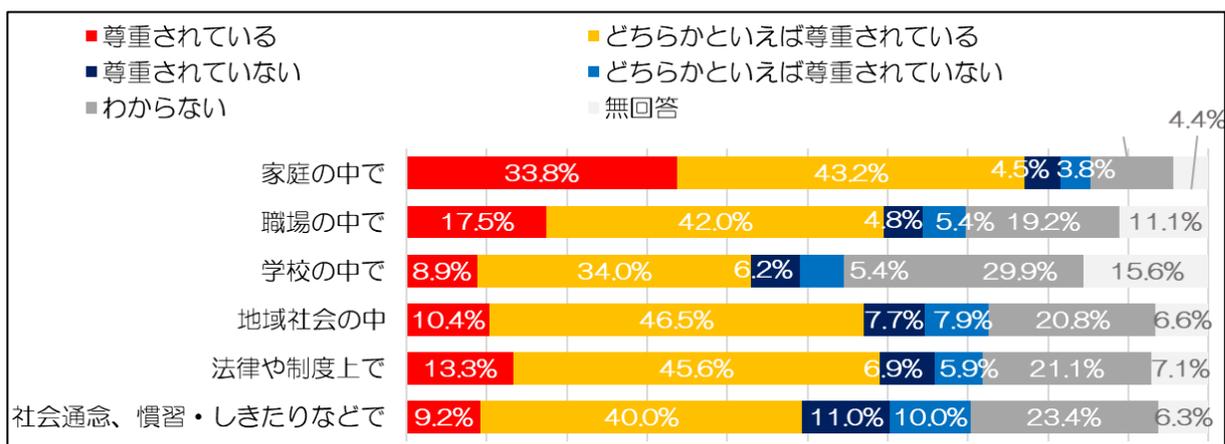
(1) 人権意識について

① 日ごろから人権を意識しながら生活している人の割合



◆ 「人権を意識しながら生活している」・「どちらかといえば人権を意識しながら生活している」と回答した人の割合が76.7%であった。

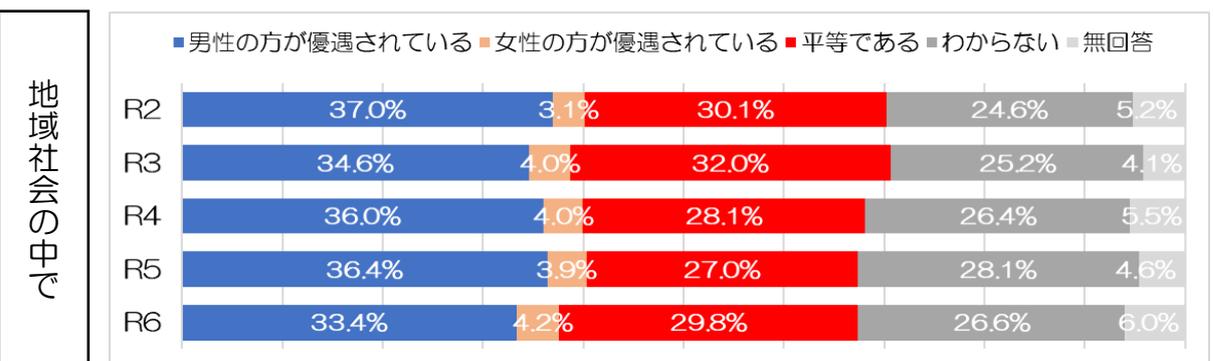
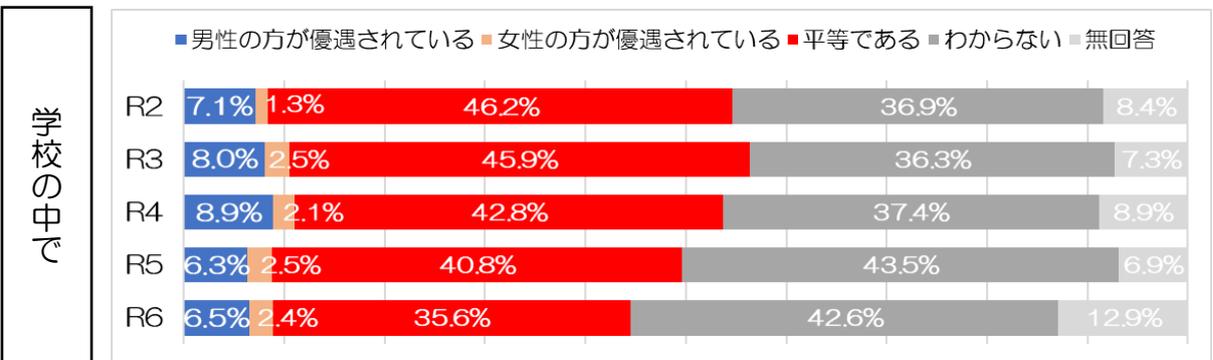
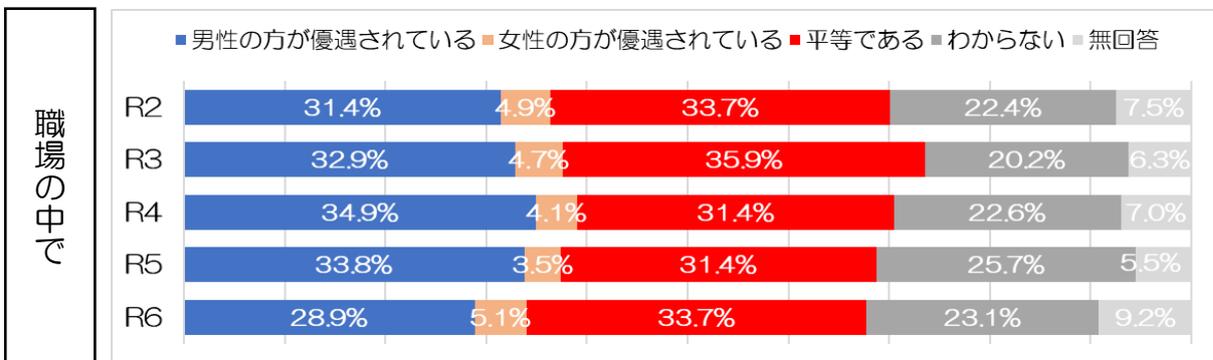
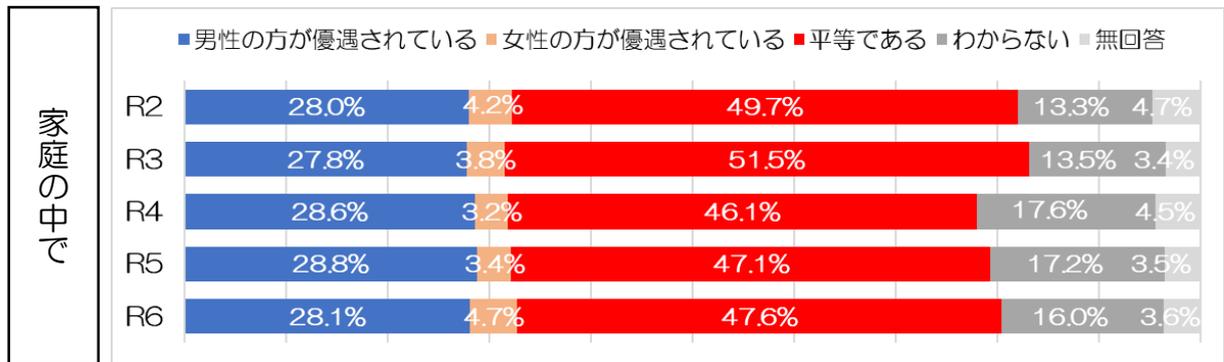
② 各分野において人権が尊重されている割合



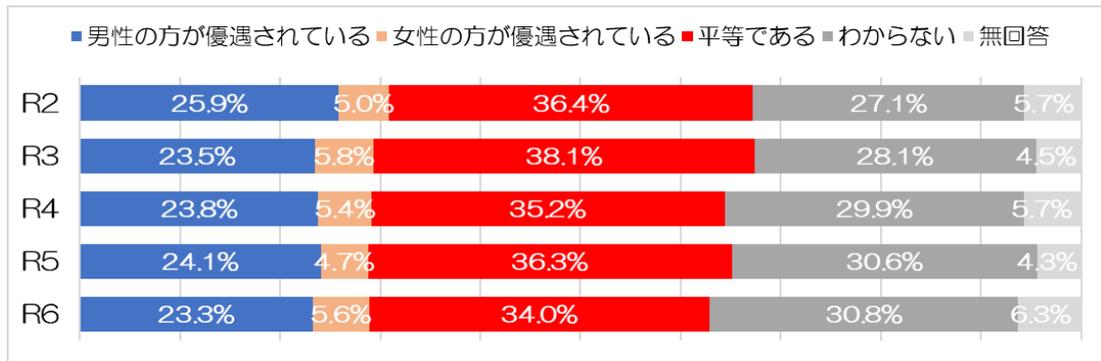
◆ 人権が特に尊重されているのは「家庭の中で」が77.0%と突出している。続いて「職場の中」の59.5%、「法律や制度上」の58.9%の順となっている。

(2) 男女平等意識について

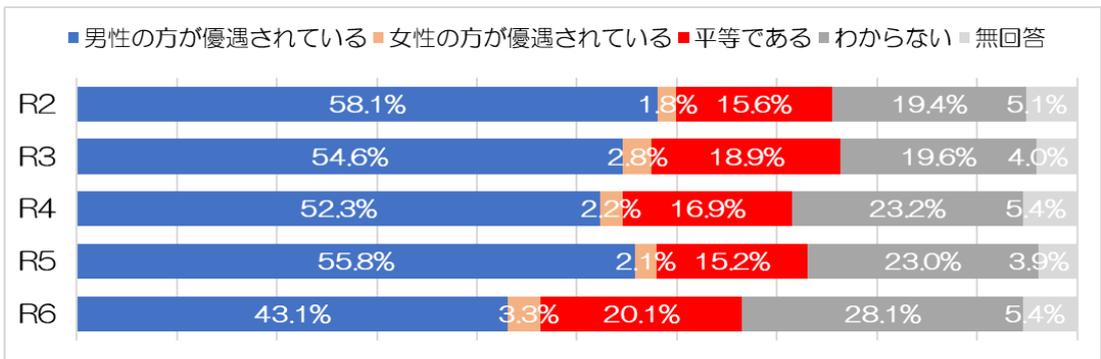
① 各分野における男女の地位の平等感



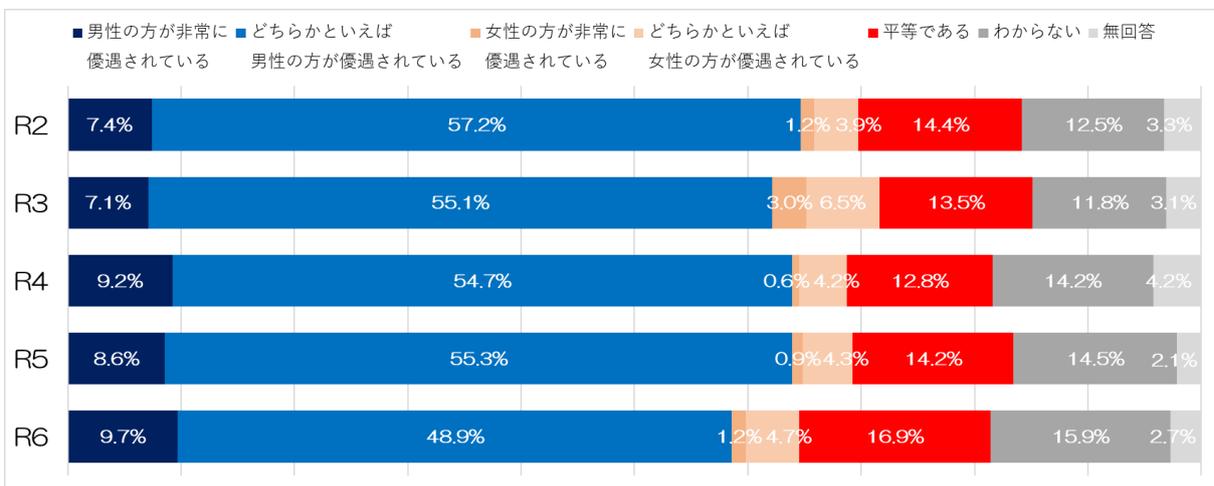
法律や制度上で



社会通念、慣習・しきたりなどで



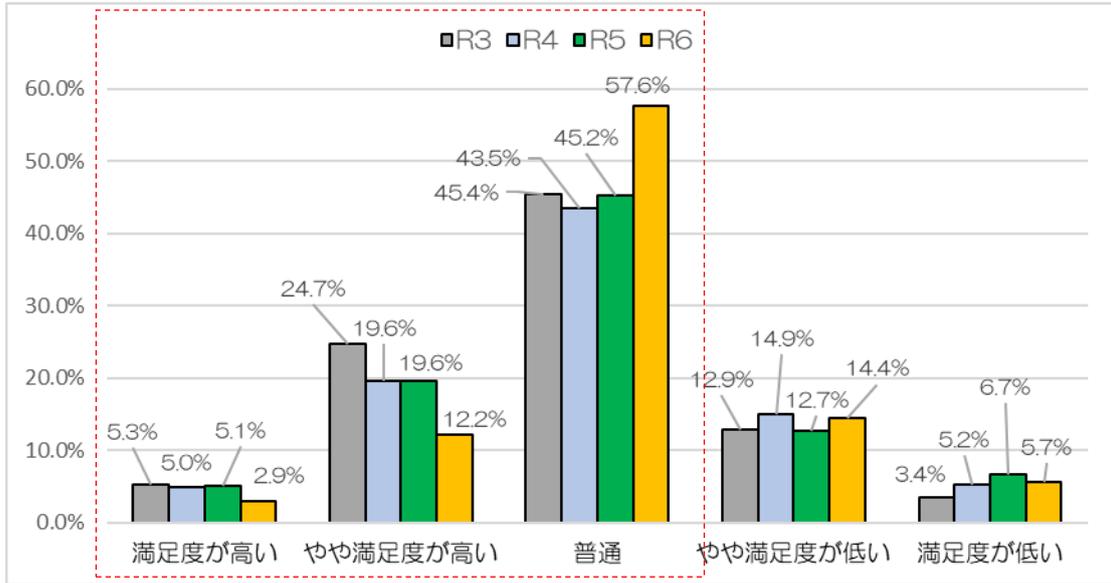
② 社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合



基準値	前々回	前回	今回	目標値
14.9%	12.8%	14.2%	16.9%	20.0%
H29	R4	R5	R6	R6

- ◆ 「社会全体」でみると、「平等である」の回答割合が前年よりも2.7ポイント増加している。「男性の方が非常に優遇されている」・「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が58.6%と前年より5.3ポイント減少している。

(3) 子育てに関する環境や支援に満足している市民の割合

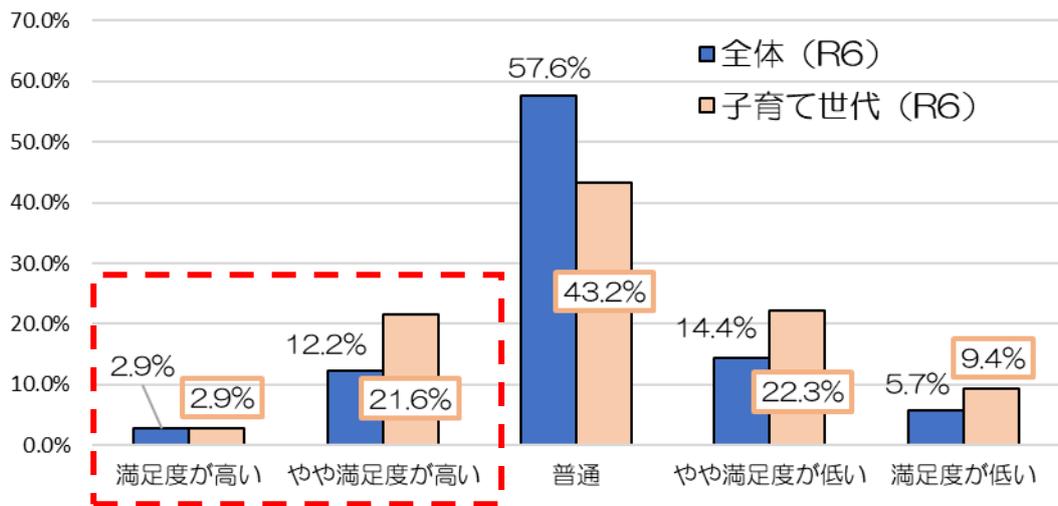


基準値	前々回	前回	今回	目標値
65.1%	68.0	69.9	72.7	75.0
H30	R4	R5	R6	R6

(※子育てに関する満足度は、満足度が高い、やや満足度が高い、普通の合計)

- ◆ 子育てに関する環境や支援に満足している市民の割合は 72.7%と前年より 2.8 ポイント増加している。

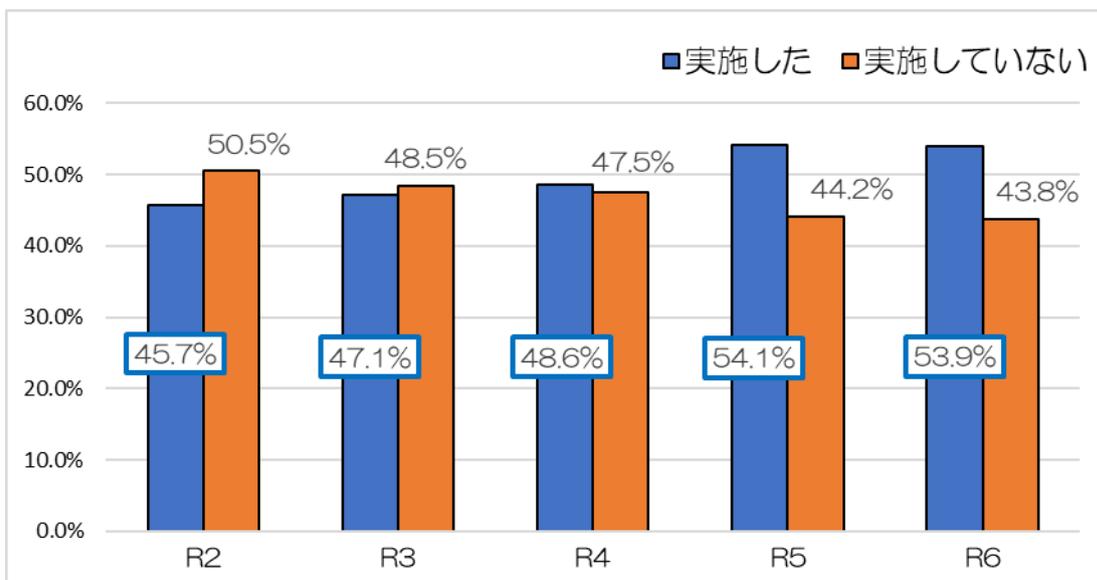
子育て世代（20～40 歳代の2世代世帯・3世代世帯）の統計との比較



- ◆ 子育て世代は「満足度が高い」・「やや満足度が高い」と回答した割合が 24.5%と全体の割合 15.1%より 9.4 ポイント高い。

(4) スポーツ実施率

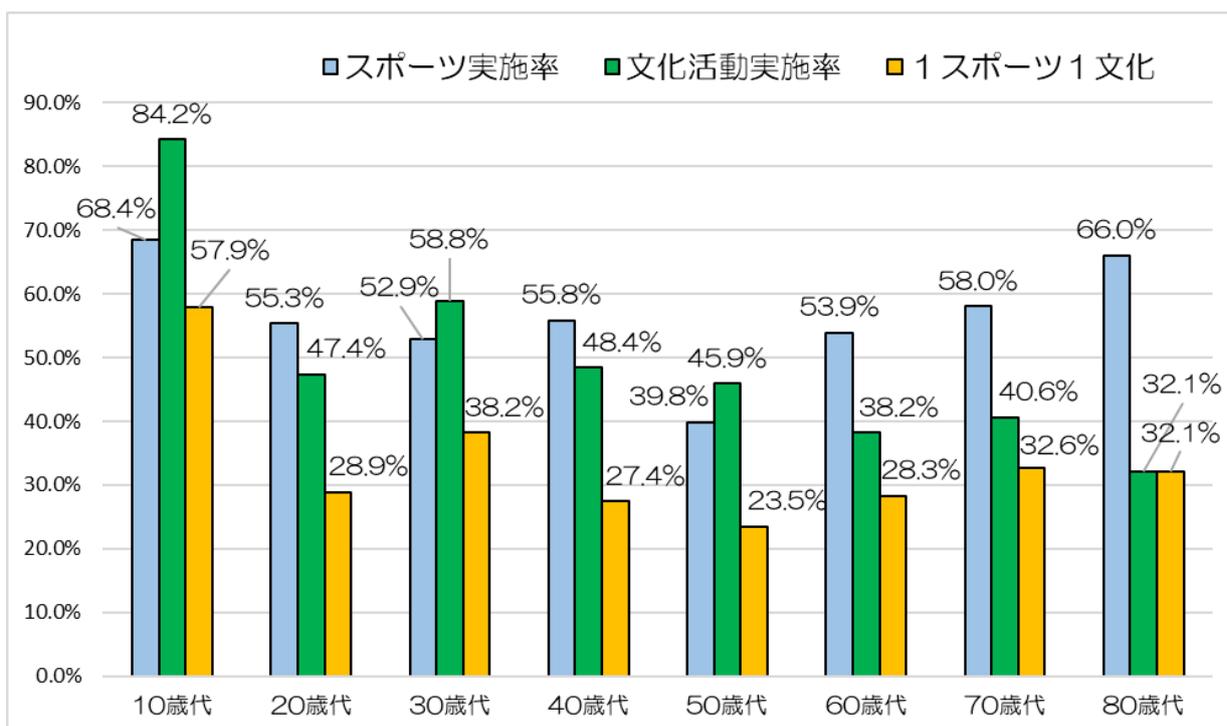
(成人(20歳代以上)が過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合)



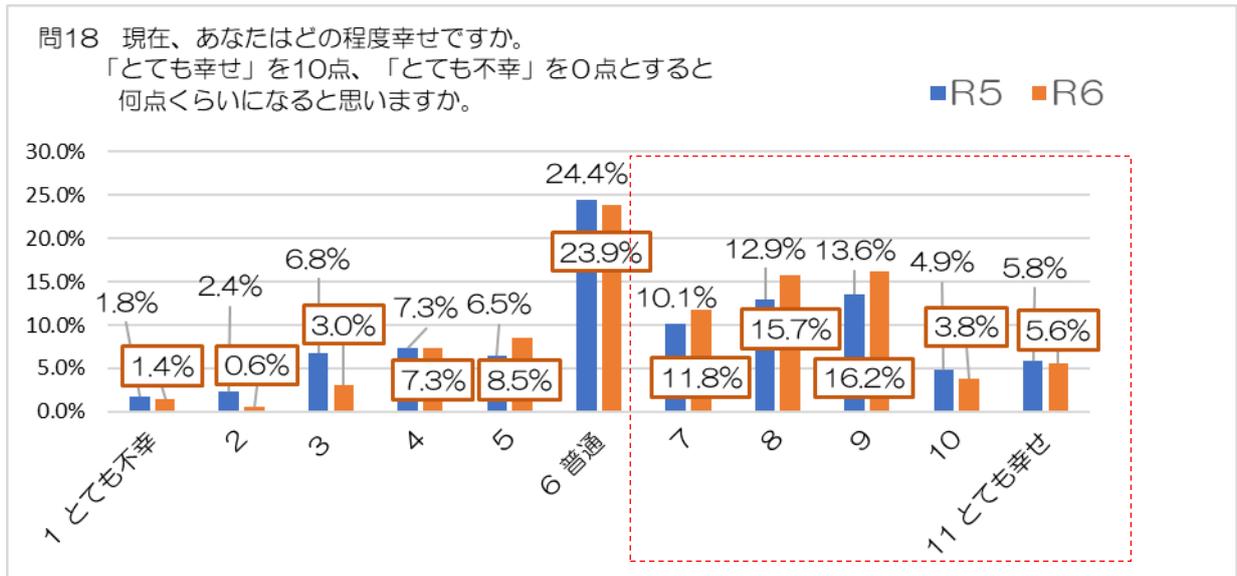
基準値	前々回	前回	今回	目標値
39.9%	48.6%	54.1%	53.9	65.0
H27	R4	R5	R6	R6

- ◆ 成人が過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合は53.9%と前年より0.2ポイント減少している。

年代別のスポーツ・文化的活動の実施率



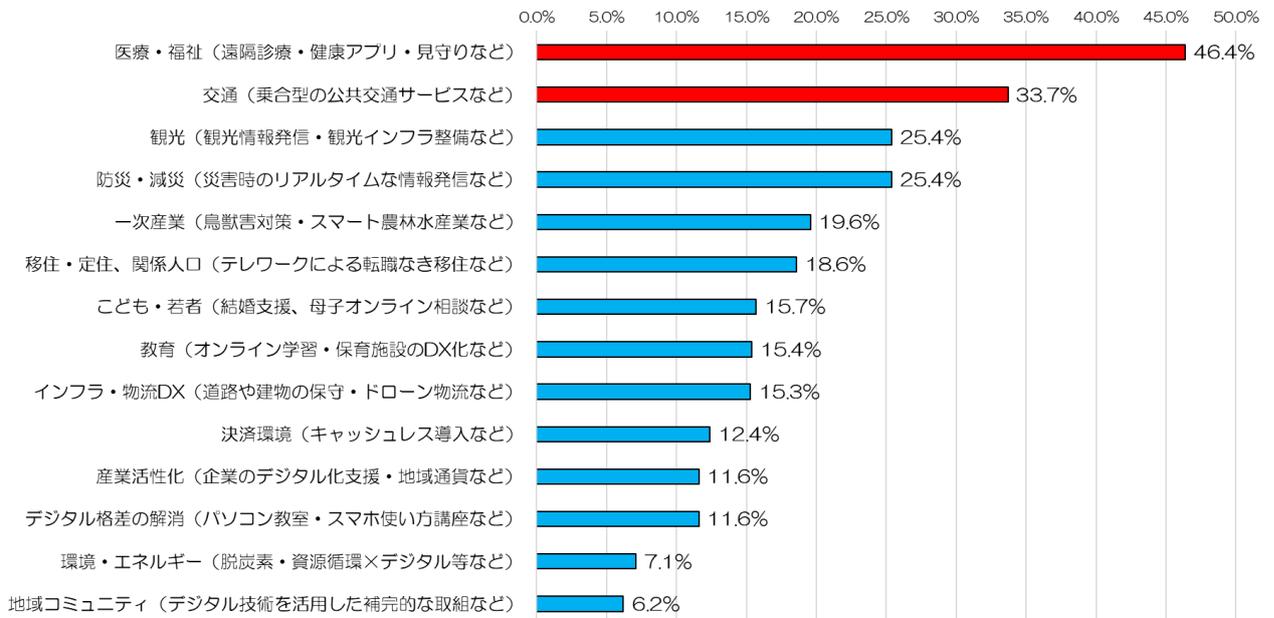
(5) いまの生活に幸福を感じている市民の割合



- ◆ いまの生活に幸福を感じている市民の割合について、11段階で調査したところ、普通と回答した割合が23.9%と最も高かったが、普通より幸せを感じている割合（7～11）は53.1%と、前年より5.8ポイント増加している。

6 その他

(1) 鹿屋市が重点をおくべきデジタル施策について

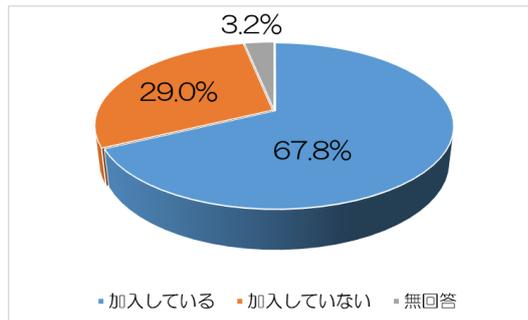


- ◆ 重点を置くべきデジタル化については、医療・福祉（遠隔診療・健康アプリ・見守りなど）が46.4%と最も高く、次いで交通（乗合型の公共交通サービスなど）の33.7%となっている。

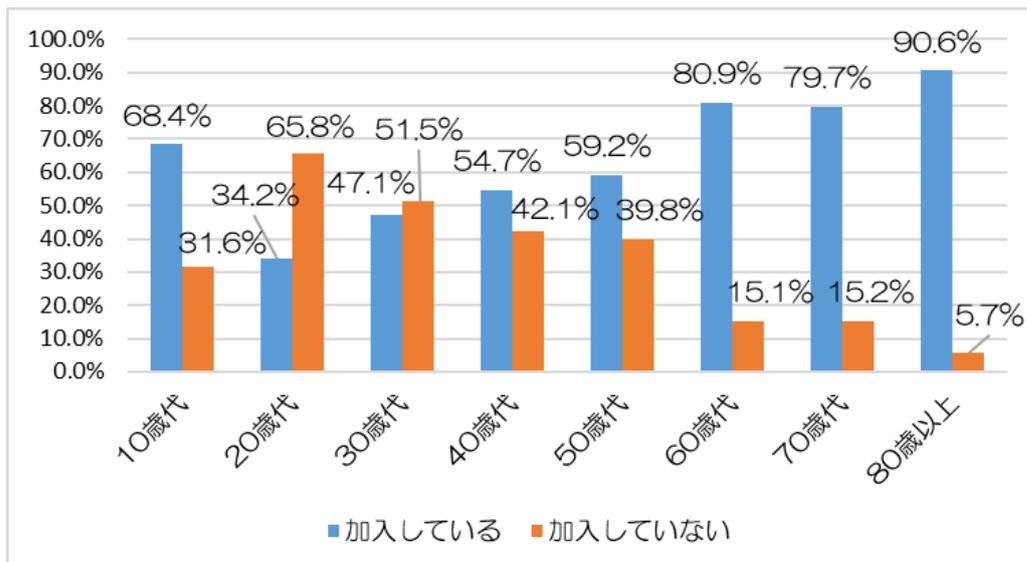
7 町内会の加入・未加入の理由等について

(1) 町内会の加入状況

区 分	件数	割合
加入している	449	67.8%
加入していない	192	29.0%
無回答	21	3.2%
合 計	662	100.0%

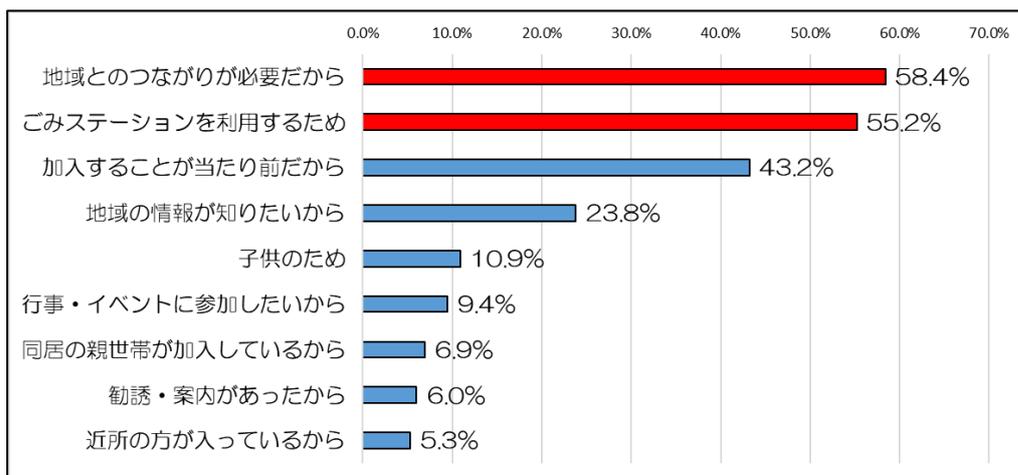


【年代別加入率】



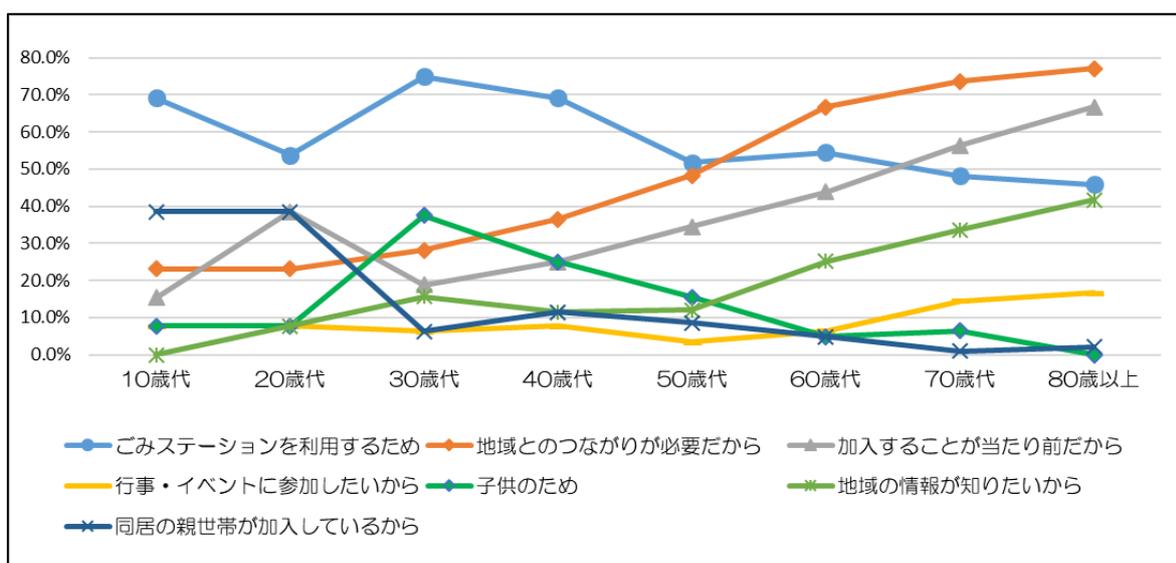
- ◆ 町内会の加入率は、年代が上がるにつれて高くなり、60歳代、70歳代の加入率は8割程度、80歳以上は9割程度となっている。

(2) 町内会に加入している理由（加入者が回答）（3つまで選択可）



- ◆ 町内会に加入している理由は、「地域とのつながりが必要だから」、「ごみステーションを利用するため」の割合が高くなっている。

【年代別加入理由】（3つまで選択可）



	ごみステーションを利用するため	地域とのつながりが必要だから	加入することが当たり前だから	行事・イベントに参加したいから	子どものため	地域の情報が知りたいから	同居の親世帯が加入しているから
10歳代	69.2%	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%	0.0%	38.5%
20歳代	53.8%	23.1%	38.5%	7.7%	7.7%	7.7%	38.5%
30歳代	75.0%	28.1%	18.8%	6.3%	37.5%	15.6%	6.3%
40歳代	69.2%	36.5%	25.0%	7.7%	25.0%	11.5%	11.5%
50歳代	51.7%	48.3%	34.5%	3.4%	15.5%	12.1%	8.6%
60歳代	54.5%	66.7%	43.9%	6.5%	4.9%	25.2%	4.9%
70歳代	48.2%	73.6%	56.4%	14.5%	6.4%	33.6%	0.9%
80歳以上	45.8%	77.1%	66.7%	16.7%	0.0%	41.7%	2.1%

◆ 年代別の加入の理由をみると、

- ・10歳代から50歳代までは「ゴミステーションを利用するため」の割合が最も高いが、60歳代以上では「地域とのつながりが必要だから」の割合が最も高くなっている。
- ・年代が上がるに連れて「地域とのつながりが必要だから」や「地域の情報が知りたいから」の割合が高くなっている。
- ・「子どものため」の割合は、30歳代や40歳代の子育て世帯が高くなっている。
- ・「行事、イベントに参加したいから」の割合は、70歳代、80歳以上が高くなっている。

※年代別の「加入理由」（上位3つ）

10歳代

- ・ゴミステーションを理由するため
- ・同居の親世帯が加入しているから
- ・地域とのつながりが必要だから

20歳代

- ・ゴミステーションを理由するため
- ・同居の親世帯が加入しているから
- ・加入すること当たり前だから

30歳代

- ・ゴミステーションを理由するため
- ・子どものため
- ・地域とのつながりが必要だから

40歳代

- ・ゴミステーションを理由するため
- ・地域とのつながりが必要だから
- ・子どものため
- ・加入すること当たり前だから

50歳代

- ・ゴミステーションを理由するため
- ・地域とのつながりが必要だから
- ・加入すること当たり前だから

60歳代

- ・地域とのつながりが必要だから
- ・ゴミステーションを理由するため
- ・加入すること当たり前だから

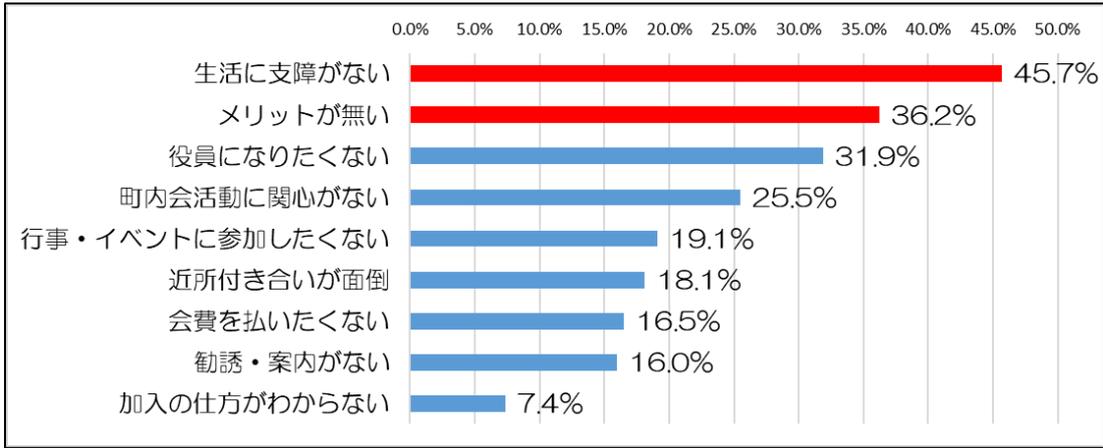
70歳代

- ・地域とのつながりが必要だから
- ・加入すること当たり前だから
- ・ゴミステーションを理由するため

80歳 以上

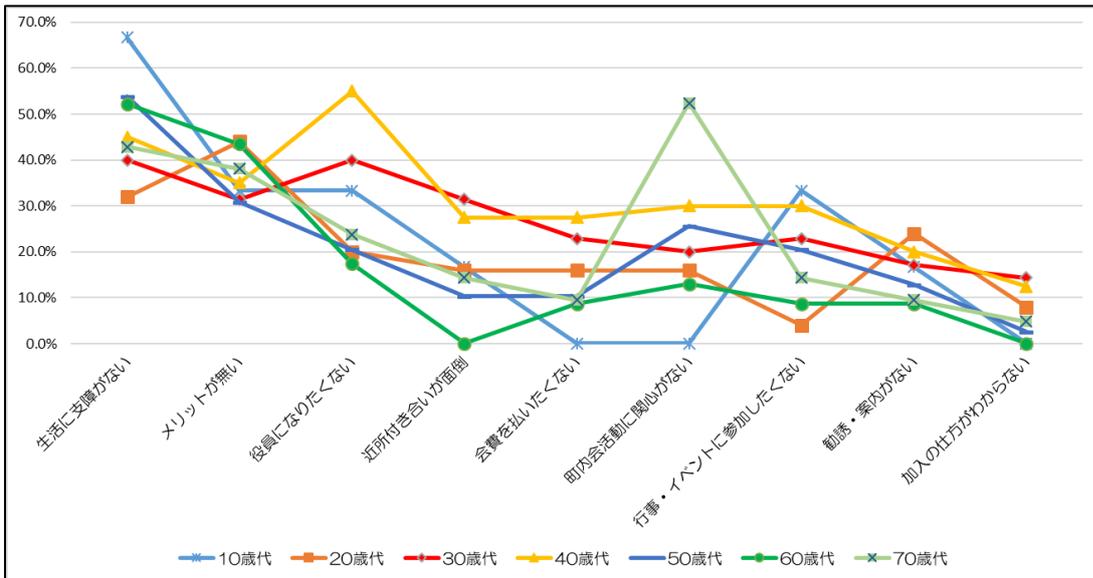
- ・地域とのつながりが必要だから
- ・加入すること当たり前だから
- ・ゴミステーションを理由するため

(3) 町内会に加入していない理由（未加入者が回答）（3つまで選択可）



◆ 町内会に加入していない理由は、「生活に支障がない」、「メリットがない」、「役員になりたくない」の割合が高くなっている。

【年代別未加入理由】（3つまで選択可）



	生活に支障がない	メリットが無い	役員になりたくない	近所付き合いが面倒	会費を払いたくない	町内会活動に関心がない	行事・イベントに参加したくない	勧誘・案内がない	加入の仕方がわからない
10歳代	66.7%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%
20歳代	32.0%	44.0%	20.0%	16.0%	16.0%	16.0%	4.0%	24.0%	8.0%
30歳代	40.0%	31.4%	40.0%	31.4%	22.9%	20.0%	22.9%	17.1%	14.3%
40歳代	45.0%	35.0%	55.0%	27.5%	27.5%	30.0%	30.0%	20.0%	12.5%
50歳代	53.8%	30.8%	20.5%	10.3%	10.3%	25.6%	20.5%	12.8%	2.6%
60歳代	52.2%	43.5%	17.4%	0.0%	8.7%	13.0%	8.7%	8.7%	0.0%
70歳代	42.9%	38.1%	23.8%	14.3%	9.5%	52.4%	14.3%	9.5%	4.8%

◆ 年代別の未加入の理由をみると

- 全ての世代について「生活に支障がない」、「メリットがない」の割合が高くなっている。
- 30歳代から40歳代は「役員になりたくない」の割合が最も高くなっている。
- 40歳代以下では、「勧誘・案内がない」「加入の仕方がわからない」の割合が50歳代以上と比較すると高くなっている。

※年代別の「未加入理由」（上位3つ）

10歳代

- ・生活に支障がないため
- ・メリットがないため
- ・役員になりたくないため
- ・行事、イベントに参加したくないため

20歳代

- ・メリットがないため
- ・生活に支障がないため
- ・勧誘、案内がないため

30歳代

- ・役員になりたくないため
- ・生活に支障がないため
- ・メリットがないため
- ・近所付き合いが面倒なため

40歳代

- ・役員になりたくないため
- ・生活に支障がないため
- ・メリットがないため

50歳代

- ・生活に支障がないため
- ・メリットがないため
- ・町内会活動に関心がないため

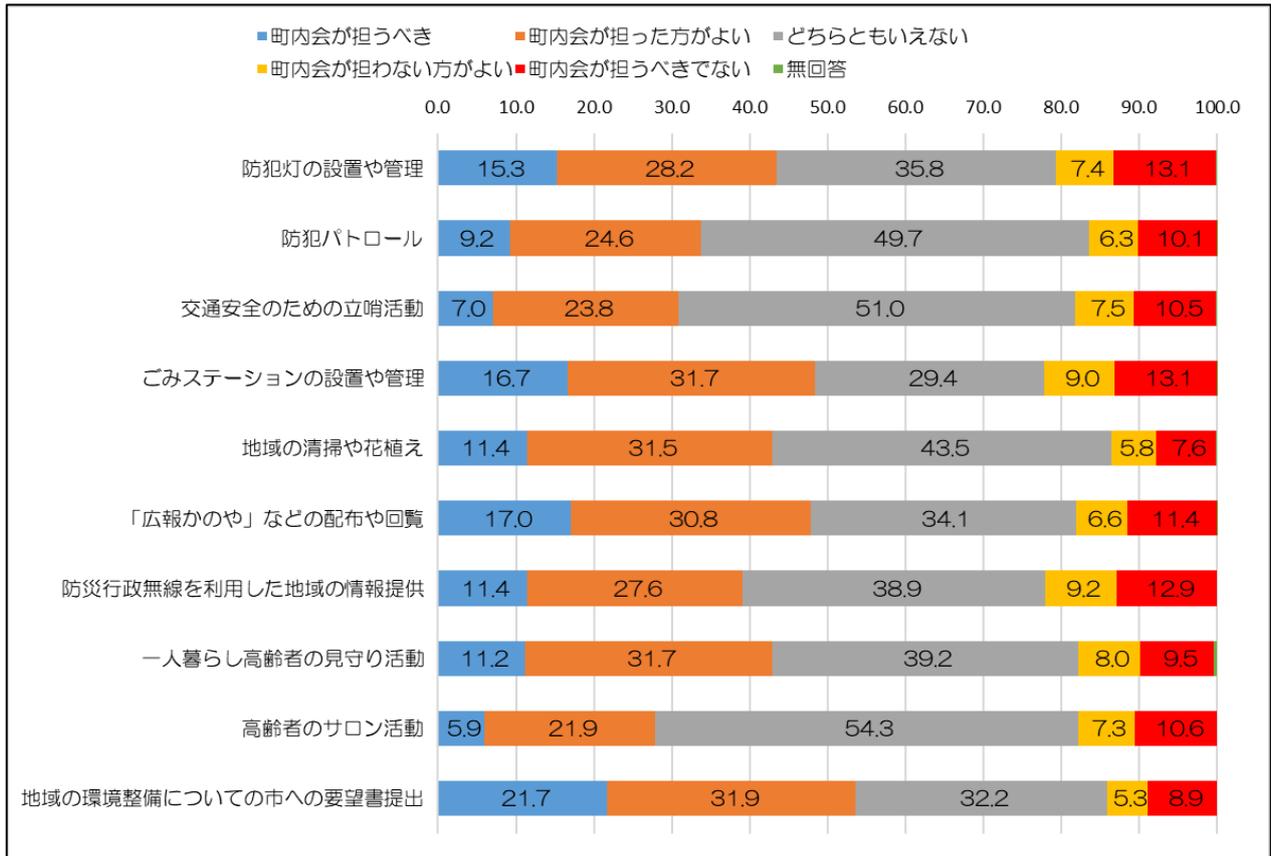
60歳代

- ・生活に支障がないため
- ・メリットがないため
- ・役員になりたくないため

70歳代

- ・町内会活動に関心がないため
- ・生活に支障がないため
- ・メリットがないため

(4) 市民が町内会が担うべきと思う活動



◆ 「町内会が担うべき」、「町内会が担った方がよい」と思う活動は、「地域の環境整備についての市への要望書の提出」の割合が最も高く、次いで「ごみステーションの設置や管理」、「広報かのやなどの配布や回覧」の順になっている。

一方、「町内会が担うべきでない」、「町内会が担わない方がよい」と思う活動は、「ごみステーションの設置や管理」、「防災行政無線を利用した地域の情報提供」の割合が最も高くなっている。

【市民が、町内会が担うべき（担った方がよい）と思う活動】

順位	項目	割合 (%)
1	地域の環境整備についての市への要望書提出	53.6%
2	ごみステーションの設置や管理	48.4%
3	「広報かのや」などの配布や回覧	47.8%
4	防犯灯の設置や管理	43.5%
5	地域の清掃や花植え	42.9%
6	一人暮らし高齢者の見守り活動	42.9%
7	防災行政無線を利用した地域の情報提供	39.0%
8	防犯パトロール	33.8%
9	交通安全のための立哨活動	30.8%
10	高齢者のサロン活動	27.8%